

薬理学

担当講座（分野）：薬理学講座（病態制御学分野）

第2学年 前期・後期

	講義	演習	実習
前期	15.0時間	1.5時間	
後期	15.0時間	1.5時間	15.0時間

教育成果（アウトカム）

歯科医師になるために必要となる薬物の薬理作用、作用機序および有害作用について知識を習得できる。
また歯科臨床に使用される薬物の基本的知識の習得ができる。 (ディプロマ・ポリシー：2、5)

事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標
4月5日(水) 2限	小笠原正人教授	概論 薬理学の定義・歴史を理解する。 薬物療法と薬理作用を理解する。	1. 薬物動態学と薬力学を説明できる。 2. 薬理学の歴史の概略を説明できる。 3. 薬物の呼び方を説明できる。 4. 薬物療法の種類を説明できる。 5. 薬理作用の基本形式と分類を説明できる。
4月12日(水) 2限	小笠原正人教授	薬物の併用・用量 薬物併用時にみられる作用を理解する。 用量を表す用語と用量—反応関係を理解する。	1. 協力作用と拮抗作用を説明できる。 2. 用量を表す用語を説明できる。 3. 用量—反応曲線を説明できる。 4. 50%有効量、50%致死量および治療係数を説明できる。
4月19日(水) 2限	小笠原正人教授	薬物動態 薬物の適用方法と薬物がどのように吸収され、代謝、分解、排泄されるかを理解する。	1. 薬物の適用方法と特徴を説明できる。 2. 吸収過程と初回通過効果を説明できる。 3. 分布過程と血中薬物の存在様式および血液脳関門を説明できる。 4. 代謝過程と薬物代謝酵素を説明できる。 5. 腎からの排泄過程を説明できる。 6. 唾液中へ排泄される薬物を列挙できる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標
4月26日(水) 2限	小笠原正人教授	薬物の生体膜通過様式と薬物動態理論 薬物の生体膜通過様式と薬物動態理論を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物の生体膜通過様式を列挙できる。 2. コンパートメント・モデルの概略を説明できる。 3. 生物学的利用能を説明できる。 4. 分布容積、クリアランス、糸球体濾過速度、生物学的半減期を説明できる。
5月10日(水) 2限	小笠原正人教授	薬理作用の機序1 受容体と受容体に作用する薬物の作用機序を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受容体とリガンドを説明できる。 2. アゴニスト、アンタゴニストを説明できる。 3. 受容体を介して作用する薬物の作用機序を説明できる。
5月17日(水) 2限	小笠原正人教授	薬理作用の機序2 受容体を介さない薬理作用を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受容体を介さない薬物とその機序を説明できる。 2. 膜輸送タンパク質と代謝酵素に作用する薬物を説明できる。 3. 物理化学的に作用する薬物を説明できる。
5月24日(水) 2限	田村晴希講師	薬効に影響する因子・薬害と医薬品の安全対策 薬効に影響する因子と連用で問題となる事項を理解する。 薬害と医薬品安全対策を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬効に影響を与える生体側と製剤側の因子を説明できる。 2. 反復適用の効果を説明できる。 3. 依存性薬物と薬物依存を説明できる。 4. 薬物蓄積を説明できる。 5. 代表的薬害と薬品名称の改善などの医薬品安全対策を説明できる。
5月31日(水) 2限	田村晴希講師	薬物の副作用と有害作用 薬物アレルギー、薬物の副作用、有害作用を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. Coombs のアレルギー分類を説明できる。 2. 薬物による副作用を説明できる。 3. 催奇形性のある薬物を説明できる。 4. 歯肉増殖症の原因薬物を列挙できる。 5. 歯の形成不全、歯牙着色など口腔内にみられる副作用とその薬物を説明できる。
6月7日(水) 2限	田村晴希講師	薬物の併用と相互作用 薬物の併用と相互作用を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物相互作用の機序を説明できる。 2. シトクローム P 450 の活性に影響を与える薬物を説明できる。
6月14日(水) 2限	田村晴希講師	医薬品適用上の注意 小児、妊婦、高齢者、有病者の薬物動態を理解し、与薬の注意点を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児・妊婦・高齢者の薬物動態と薬用量を説明できる。 2. 小児・妊婦・高齢者への薬物投与上の注意を説明できる。 3. 有病者への薬物適用を説明できる。
6月21日(水) 2限	小笠原正人教授	演習 講義で修得した項目の理解を深め、問題解決能力を身につける。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で修得すべき項目を問題演習で正解できる。 2. 講義で理解できなかった項目を学習し、説明できる。 3. 提示課題の要点を解説できる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標
9月26日(火) 2限	花木賢一 非常勤講師	動物実験の適正実施 医学研究における動物愛護と福祉の精神を理解する。	1. 動物取り扱い上の注意を説明できる。 2. 動物愛護の精神と関連法規を説明できる。
10月3日(火) 2限	小笠原正人教授	神経伝達物質と自律神経系・交感神経作動薬 神経伝達物質と自律神経系を理解する。 交感神経作動薬の種類、作用機序、臨床応用、有害作用を理解する。	1. 神経伝達物質、自律神経系、各種臓器の反応性を説明できる。 2. 自律神経系に關与する受容体の種類と機能を説明できる。 3. アドレナリン作動性薬物の作用機序、臨床応用、有害作用を説明できる。 4. アドレナリン作動性拮抗薬の作用機序、臨床応用、有害作用を説明できる。
10月10日(火) 2限	小笠原正人教授	副交感神経作動薬・末梢性筋弛緩薬 副交感神経作動薬の種類、作用機序、臨床応用、有害作用を理解する。 末梢性筋弛緩薬を理解する。	1. コリン作動性薬物の作用機序、臨床応用、有害作用を説明できる。 2. 抗コリン作動性薬物の作用機序、臨床応用、有害作用を説明できる。 3. 運動神経に關与する受容体を説明できる。 4. 主な末梢性筋弛緩薬を列挙し、その作用機序、臨床応用を説明できる。
10月17日(火) 2限	平 英一教授 (薬理学講座情報 伝達医学講座)	疼痛と中枢性鎮痛薬・中枢興奮薬・抗けいれん薬 中枢性鎮痛薬の種類と作用機序、法規制を理解する。 脳幹作用型興奮薬と脊髄作用型興奮薬を理解する。 主な抗けいれん薬を理解する。	1. 各種の痛みの発生機序を説明できる。 2. 麻薬性薬物の種類と作用機序および規制法律を説明できる。 3. 非麻薬性鎮痛薬の薬理作用と作用機序を説明できる。 4. WHO方式の癌性疼痛治療を説明できる。 5. 脳幹作用型興奮薬と脊髄作用型興奮薬を説明できる。 6. GABA受容体に作用する抗けいれん薬の概要を理解する。
10月24日(火) 2限	水間謙三講師 (医学部麻酔学講座)	全身麻酔薬・麻酔前投薬 全身麻酔薬の概念と歴史を知り、化学的性質を理解する。 麻酔前投薬の特徴を理解する。	1. 麻酔深度の各段階を説明できる。 2. 麻酔薬の導入に影響する因子を説明できる。 3. 主な吸入麻酔薬の特徴を説明できる。 4. 主な静脈内麻酔薬の特徴を説明できる。 5. 麻酔前投薬の目的・種類・特徴を説明できる。
10月31日(火) 2限	山田ありさ助教	局所麻酔薬・血管収縮薬 局所麻酔薬の作用機序、化学構造上の分類、局所麻酔作用以外の薬理作用を理解する。また、局所麻酔薬使用のための基本的事柄を理解する。 局所麻酔薬と併用される血管収縮薬を理解する。	1. 局所麻酔薬を化学構造から分類できる。 2. 麻酔効果に影響する因子を説明できる。 3. 局所麻酔薬の局所麻酔作用以外の薬理作用を説明できる。 4. 歯科用局所麻酔薬の原則禁忌を説明できる。 5. 局所麻酔薬の適正使用量を説明できる。 6. 局所麻酔薬に血管収縮薬を添加する目的を説明できる。 7. 血管収縮薬の種類と特徴を説明できる。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標
11月7日(火) 2限	小笠原正人教授	抗炎症薬・抗ヒスタミン薬 解熱鎮痛薬と酸性非ステロイド性抗炎症薬の概要を理解する。 抗ヒスタミン薬の臨床応用例を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解熱鎮痛薬と酸性非ステロイド性抗炎症薬の主な薬物を列挙し、それぞれの作用機序と副作用を説明できる。 2. ヒスタミン受容体の種類を列挙できる。 3. 抗ヒスタミン薬による薬物療法を説明できる。
11月14日(火) 2限	小笠原正人教授	消化器系作用薬 消化性潰瘍の発症機序と治療薬の薬理作用を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胃・十二指腸潰瘍の発症機序を説明できる。 2. 胃腸障害治療薬の作用機序、特徴、臨床応用例を説明できる。
11月21日(火) 2限	山田ありさ助教	医薬品の分類と関連法規・医薬品開発と臨床試験 医薬品の分類と法令等を理解する。 臨床試験と実施基準の概要を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の分類を説明できる。 2. 医薬品医療機器等法と日本薬局方の概要を説明できる。 3. 麻薬、向精神薬、覚せい剤の取り扱いと毒薬、劇薬などの標示を説明できる。 4. 臨床試験と臨床試験実施基準の概要を説明できる。 5. 治験審査委員会を説明できる。
11月28日(火) 2限	田村晴希講師	副作用の予知と回避・ゲノム薬理学 薬物の副作用の予知と回避の方策を理解する。 ゲノム創薬、オーダーメイド医療を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服薬指導と服薬計画を説明できる。 2. 治療薬物モニタリングを説明できる。 3. ゲノム情報が薬物学に利用されていることを説明できる。 4. オーダーメイド医療を説明できる。
1月22日(月) 1限	小笠原正人教授	演習 講義で修得した項目の理解を深め、問題解決能力を身につける。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義で修得すべき項目を問題演習で正解できる。 2. 講義で理解できなかった項目を学習し、説明できる。 3. 提示された課題の要点を解説できる。

実習日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標
10月30日(月) 3,4限	小笠原正人教授 田村晴希講師 山田ありさ助教	動物実験の倫理と法規・ 実験動物の取扱い方法 動物愛護と福祉の精神を 理解する。 動物実験に必要な手技を 理解する。 薬物の中枢作用 薬物の興奮作用と抑制作 用を理解する。 薬物の協力作用を理解す る。	1. 動物愛護と福祉の精神について理解する。 2. 実験動物の個体識別法を説明できる。 3. 実験動物の保持法を説明できる。 4. 各種の投与方法を説明できる。 1. ストリキニーネ、ピクロトキシン、フェノールを投与したマウスに発現するけいれんをビデオで観察し、強直性痙攣、間代性痙攣の違いを理解する。 2. リドカインの中毒作用とジアゼパムの抗けいれん作用をビデオ視聴する。 3. クロルプロマジンとエーテルを併用した場合の協力作用をマウスで観察する。
11月6日(月) 3,4限	小笠原正人教授 田村晴希講師 山田ありさ助教	薬物の唾液腺に対する作用 マウスを用いて、唾液分泌反応に及ぼす自律神経系の関与を理解する。	1. ピロカルピンとイソプレナリンによる唾液分泌反応の違いを説明できる。 2. 唾液分泌反応に対する抗コリン薬とβ遮断薬の影響を説明できる。
11月13日(月) 3,4限	小笠原正人教授 田村晴希講師 山田ありさ助教 丹治麻希助教 (薬学部分子細胞薬理学講座)	薬物の腸管平滑筋に対する作用 モルモット摘出腸管を用いて、自律神経作動薬およびその他の薬物の作用態度を理解する。	1. アセチルコリンやバリウム、ヒスタミンによる平滑筋収縮反応を説明できる。 2. 腸管平滑筋収縮に対する抗コリン薬や抗ヒスタミン薬、パパペリンの効果を観察し、薬理作用の相違を説明できる。 3. 腸管運動に対する自律神経支配を説明できる。
11月14日(火) 3,4限	小笠原正人教授 田村晴希講師 山田ありさ助教 弘瀬雅教授 (薬学部分子細胞薬理学講座) 水間謙三講師 (医学部麻酔学講座)	薬物の心臓に対する作用 ウシガエル摘出心臓標本を使用して、心臓機能に及ぼす自律神経作動薬の効果を理解する。	1. 心機能に対する交感神経作動薬（アドレナリン、イソプレナリン）の効果を説明できる。 2. 心機能に対する副交感神経作動薬（アセチルコリン）の効果を説明できる。
11月22日(水) 3限	小笠原正人教授 田村晴希講師 山田ありさ助教	薬物の鎮痛効力の検定 鎮痛薬の特徴を理解し、鎮痛薬検定法の手技を習得する。	1. モルヒネ、ペンタゾシン、サリチル酸ナトリウムの鎮痛効力をハフナー法で測定し、それらの効力を比較する。
11月22日(水) 4限	小笠原正人教授 田村晴希講師 山田ありさ助教	実習試験	1. 実習で習得した知識について理解度を評価する。

教科書・参考書 (教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書名	著者氏名	発行所	発行年
教	現代歯科薬理学 第5版	加藤有三ほか 監修	医歯薬出版	2012年
参	解る! 歯科薬理学 第2版	坂上 宏ほか編著	学建書院	2009年
参	スタンダード歯学薬理学 第2版	川口 充ほか 編著	学建書院	2001年
参	歯科薬理学 第5版	石田 甫ほか編	医歯薬出版	2005年
参	シンプル薬理学 改訂第5版	野村隆英・石川直久 編集	南江堂	2014年
参	標準薬理学 第7版	今井正・宮本英七 監修	医学書院	2015年
参	NEW薬理学 改訂第6版	田中千賀子・加藤隆一 編集	南江堂	2011年
参	臨床薬理学 Principles of Pharmacology 原書第3版 ハーバード大学講義テキスト	David E. Golan ほか著 渡邊裕司 監訳	丸善出版	2015年
参	Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 12 th edition	Laurence L. Brunton, Bruce A. Chabner, Björn C. Knollmann	McGraw-Hill	2011年

成績評価方法

<p>定期試験、実習試験の成績と提出物から総合評価する。 内訳(評価比率)：前期試験(40%)、後期試験(40%)、実習試験(10%)、提出物(10%)</p>
--

授業に使用する機械・器具と使用目的

[薬理学]

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的	
プランソン超音波ホモナイザー 用スペシャルマイクロチップ	101-063-212	1	基礎実習・研究用機器	サンプルの調整
超音波ホモナイザー	Model1250	1	基礎実習・研究用機器	サンプルの調整
パソコン一式	iMac800/Flat17	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成
液晶プロジェクター	LV-7345	1	視聴覚用機器	講義・実習およびチュウトリアル のプレゼンテーション用
パソコン一式	PowerMacG4/1G	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成
複写機	imageRUNNER iRC320	1	基礎実習・研究用機器	講義用配布資料のプリント
ノートパソコン	iBook14.1/COMB O	1	基礎実習・研究用機器	実習データの統計処理(学生用)

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的
薬作型電動式キモグラフィオン	KN-215	1	基礎実習専用機器 腸管に作用する薬物の効果の実験
フレークアイスメーカー式	FM-120F	1	基礎実習・研究用機器 実習試薬・サンプルの保存
超低温フリーザ	MDF-393	1	基礎実習・研究用機器 実習試薬・サンプルの保存
パソコン	XPS M1530	1	基礎実習・研究用機器 講義用配布資料の作成 資料提示用
クールサーモユニット	CTU-NED	1	基礎実習・研究用機器 サンプルの調整
バイオシェーカー	BR-23UM・MR	1	基礎実習・研究用機器 サンプルの調整
Veriti96-Wellサーマルサイクラー0.2ml Veriti200		1	基礎実習・研究用機器 サンプルの調整
ドライサーモユニット	DTU-2C	1	基礎実習・研究用機器 サンプルの調整
ノートパソコン一式	XPS13	1	基礎実習・研究用機器 講義・実習資料作成
ノートパソコン一式	PCLS550CS6W	1	基礎実習・研究用機器 講義・実習資料作成
デスクトップパソコン	PCVW770DS6C	1	基礎実習・研究用機器 講義・実習の資料作成
ノートパソコン・Lets note	CF-J10	1	基礎実習・研究用機器 講義のプレゼン用 資料作成
ノートパソコン	CF-S10	1	基礎実習・研究用機器 講義のプレゼン用 資料作成
コピー機 Image RUNNER ADVANCE 一式	C2218F-V	1	基礎実習・研究用機器 講義・実習資料作成
タブレットパソコン 一式	7XR00030 他	1	基礎実習・研究用機器 講義・実習資料作成
ノートパソコン	PCNS750AAR	1	基礎実習・研究用機器 講義・実習の配付資料作成
ノートパソコン・Let's noteSX4	CF-SX4MDPBR	1	基礎実習・研究用機器 講義・実習の配付資料作成、講義・自習のプレゼン用
タブレットPC・Xperia32GB	SGP712P/W	1	基礎実習・研究用機器 講義・実習の配付資料作成、講義・自習のプレゼン用
薬理学実習システム 一式	PowerLab2/26 ML826 他	2	基礎実習専用機器 実習用標本作成
フォーストランスジューサ	MLTF500/ST	2	基礎実習専用機器 実習用標本作成